

VII 環境保全データ

大気データ

特定工場として届出している6事業所の大気および水質に関するデータを示します。排ガスについてはNOx、SOx、ばいじんを、排水についてはpH、COD（またはBOD）、SS、n-h（鉱物油）について示します。

		項目	設備	規制値	自主管理値	平均値	最大値
千葉事業所	NOx、SOx共総量規制を受けているが、日常管理はppmで実施	NOx (Nm ³ /h)	ボイラ	0.45	82(ppm)	44(ppm)	49(ppm)
			溶解炉	1.77	63(ppm)	21(ppm)	23(ppm)
		SOx (Nm ³ /h)	ボイラ	0.502	58(ppm)	44(ppm)	49(ppm)
		ばいじん (g/Nm ³)	ボイラ	0.05	0.01	0.004	0.007
		溶解炉	0.39	0.065	0.019	0.024	
三重事業所	NOx (ppm)	ボイラ	180	140	54	54	
		溶解炉	180	140	20	27	
		加熱炉	180	140	12	18	
	SOx (Nm ³ /h)	ボイラ	0.6	0.5	0	0	
		溶解炉	41.6	33.3	0	0	
		加熱炉	2.2	1.8	0	0	
ばいじん (g/Nm ³)	ボイラ	0.3	0.24	0.005	0.005		
	溶解炉	0.3	0.24	0.007	0.013		
	加熱炉	0.2	0.16	0.005	0.005		
日光事業所	清滝地区	NOx (ppm)	ボイラ	180	180	68	78
			溶解炉	200	200	25	36
			乾燥炉	300	250	21	21
		SOx (K値)	ボイラ	17.5	17.5	0.51	0.62
			溶解炉	17.5	17.5	0.58	0.86
			乾燥炉	17.5	17.5	0.17	0.19
	ばいじん (g/Nm ³)	ボイラ	0.3	0.3	0.002	0.002	
		溶解炉	0.2	0.2	0.001	0.001	
		乾燥炉	0.5	0.2	0.005	0.008	
	製板工場	NOx (ppm)	ボイラ	230	230	51	52
			溶解炉	180	150	66	117
			加熱炉	200	160	21	29
SOx (K値)		ボイラ	17.5	14.5	0.03	0.03	
		溶解炉	17.5	14.5	0.27	0.55	
		加熱炉	17.5	14.5	0.07	0.07	
ばいじん (g/Nm ³)	ボイラ	0.25	0.25	0.01	0.01		
	溶解炉	0.3	0.25	0.03	0.08		
	加熱炉	0.25	0.25	0.02	0.06		
大阪事業所	NOx (ppm)	ボイラ	150	120	6	7	
		溶解炉	200	160	7	8	
		加熱炉	170	144	6	7	
	SOx (K値)	ボイラ	1.17	1.17	0	0	
		溶解炉	1.17	1.17	0	0	
		加熱炉	1.17	1.17	0	0	
ばいじん (g/Nm ³)	ボイラ	0.1	0.08	0.002	0.002		
	溶解炉	0.2	0.16	0.001	0.001		
	加熱炉	0.25	0.2	0.001	0.001		
福井事業所	NOx (ppm)	ボイラ	120	110	83	94	
		溶解炉	120	110	87	101	
		加熱炉	120	110	49	63	
		乾燥炉	110	100	19	34	
	SOx (ppm)	ボイラ	380	50	5	5	
		溶解炉	160	130	31	65	
ばいじん (g/Nm ³)	ボイラ	0.1	0.05	0.005	0.005		
	溶解炉	0.2	0.16	0.019	0.051		
	加熱炉	0.12	0.1	0.005	0.005		
	乾燥炉	0.12	0.08	0.007	0.013		
小山事業所	NOx (ppm)	ボイラ	150	120	90	99	
		溶解炉	180	180	93	138	
		加熱炉	130	120	40	43	
	SOx (K値)	ボイラ	7	1	0.03	0.03	
		溶解炉	7	1	0.09	0.09	
		加熱炉	7	1	0.07	0.07	
ばいじん (g/Nm ³)	ボイラ	0.3	0.1	0.005	0.006		
	溶解炉	0.2	0.1	0.008	0.017		
	加熱炉	0.2	0.1	0.001	0.001		

水質データ

		項目	規制値	自主管理値	平均値	最大値
千葉事業所		pH	5.0～9.0	5.0～9.0	7.8	8.1
		COD(mg/l)	15	15	5.6	9.3
		SS(mg/l)	20	20	3.9	3.9
		n-h(鉱物油)(mg/l)	2	2	0.2	0.2
三重事業所		pH	5.8～8.6	6.5～8.5	7.5	8.2
		BOD(mg/l)	10	4	1.9	8
		SS(mg/l)	25	6	1.4	4.5
		n-h(鉱物油)(mg/l)	1	0.7	0.1	0.4
日光事業所	清滝地区	pH	5.8～8.6	6.0～8.5	7.6	7.7
		BOD(mg/l)	25	16	3.2	5.2
		SS(mg/l)	50	20	3.9	24
		n-h(鉱物油)(mg/l)	5	0.5	0.4	0.5
	製板工場	pH	5.8～8.6	6.5～8.5	7.4	7.9
		BOD(mg/l)	25	10	1.3	2.3
		SS(mg/l)	50	25	0.3	2.5
		n-h(鉱物油)(mg/l)	5	2.5	<1	<1
大阪事業所		pH	5.7～8.7	5.7～8.7	7.5	8.1
		BOD(mg/l)	300	10	3.9	8.5
		SS(mg/l)	300	50	13	15
		n-h(鉱物油)(mg/l)	5	2	1.4	2
福井事業所		pH	5.0～9.0	5.5～8.8	7.6	8.5
		COD(mg/l)	600	250	39	92
		SS(mg/l)	600	250	23	96
		n-h(鉱物油)(mg/l)	5	4.5	0.6	4.6
小山事業所		pH	5.8～8.6	6.0～8.0	7.2	7.4
		BOD(mg/l)	25	20	3.1	4.9
		SS(mg/l)	50	30	14	30
		n-h(鉱物油)(mg/l)	5	2	0.5	0.6

Ⅷ 環境経営の歩み、編集後記

1972	公害防止全社規程制定
1974	環境管理室設置 省エネルギー活動チーム発足
1989	特定フロン使用削減チーム発足
1992	特定フロン使用削減チームをオゾン層破壊物質使用削減チームに改称
1993	「地球環境保全に関する基本的な考え」の策定(古河電工のボランティアプラン)
1994	省エネルギー推進委員会発足
1996	特定フロン、トリクロロエタン全廃
1997	産業廃棄物削減推進チーム発足
1998	古河電工環境基本方針制定 中央環境管理委員会発足 環境調和製品開発委員会発足 千葉事業所で ISO14001 認証取得 三重事業所で ISO14001 認証取得 公害防止全社規程を改訂して全社環境管理規程を制定
1999	安全環境衛生推進部を発足し、環境管理室および安全管理部門を統合
2000	環境・エネルギー研究所設立 関連会社環境連絡会設立 環境報告書創刊 環境担当者会議発足 平塚事業所で ISO14001 認証取得 大阪事業所で ISO14001 認証取得 蒲原事業所で ISO14001 認証取得
2001	環境保全活動中期2002策定('01~'02) 品川事業所で ISO14001 認証取得 環境会計公表
2002	日光事業所(清滝地区)で ISO14001 認証取得 福井事業所で ISO14001 認証取得 横浜研究所で ISO14001 認証取得 小山事業所・滋賀事業所で ISO14001 認証取得 グリーン調達準備委員会発足
2003	古河電工環境基本方針改訂 環境保全活動中期2005策定('03~'05) グリーン調達実行委員会発足 日光事業所(製板工場)を含め全事業所で ISO14001 認証取得

編集後記

2002年度は、当社の環境保全活動中期2002が終了した年でありました。その中でも最大の課題であった全事業所のISO14001の認証取得を達成することができました。

環境報告書の発刊も4年目を迎え、新たに安全衛生活動や関連会社の活動状況を盛り込むなど、内容の充実を図りました。さらに、読みやすいよう工夫を凝らし、より多くの読者に読んでいただけるように配慮したつもりです。

今後は、世界的にますます要請が高まると予想される、企業の社会的責任を考慮した情報開示に向けて、関連部門の協力を得るとともに、掲載範囲も拡張していきたいと考えております。なお、添付のアンケートにて、本報告書をご覧いただいた皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。